

# 生涯学習講座たより

皆さん、こんにちは。これまで生涯学習講座では「生涯学習講座ニュース」を NO.50 まで発行してきました。今回リニューアルし「生涯学習講座たより」として発行していきます。取り上げる人物の紹介やその人物が遺した言葉、そして関連史跡の説明などご紹介していきます。皆さんに少しでも講座で取り上げる人物に興味を持って頂ければと思います。

昨年度 3 月講座は郷土史編として、岐阜では「古田織部」、滋賀では「豊臣秀次」を取り上げて講座を行いました。両講座ともお問い合わせが多く、皆さんの関心の高さが分りました。お越し頂きました皆さん、有難うございました。

いよいよ今年度も公開講座を開催する時期となりました。公開講座では「黒田官兵衛とその時代～三英傑に関わった武将の姿～」と題して行います。今年度の年間テーマは「天下取りの行方を左右した武将とその生き様」と題して、黒田官兵衛・竹中半兵衛・明智光秀・石田三成を取り上げますが、その第一弾として黒田官兵衛を取り上げます。



黒田官兵衛は現在 NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」の登場人物です。黒田家は播磨の有力豪族・小寺氏の重臣でした。官兵衛は小寺家・黒田家が生き残るために織田方につくことに奔走します。官兵衛は小寺家の内紛に巻き込まれ、官兵衛自身も説得しに赴いた摂津の荒木村重に 1 年間囚われの身となり苦悩する半生でした。その後は軍師として秀吉の天下統一の大事業を助けていきます。講座では織田信長・豊臣秀吉・徳川家康と三英傑に関わった武将としていかにして戦国時代を生き抜いていったのか、「稀代の軍師」と呼ばれた官兵衛についてご紹介する中で、彼の苦悩と決断について迫っていきたいと思います。

今年度最初の講座になります。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

## 次回講座のお知らせ

### 黒田官兵衛とその時代

～三英傑に関わった武将の姿～

- 【岐阜】 **6月27日 (金)** 19:30～21:30  
 【本荘】 **6月28日 (土)** 14:00～16:00  
 【大垣】 **6月28日 (土)** 19:00～21:00  
           **6月29日 (日)** 14:00～16:00  
 【長浜】 **7月 6日 (日)** 14:00～16:00



- <講師> 秋枝 博士 (志門塾 生涯学習部講師)  
 <受講料> 公開講座につき無料  
 <場所> 岐阜 志門塾岐阜本部 (岐阜シティータワー43)  
           本荘 志門塾本荘校 (岐阜市稲荷町 5-1-6)  
           大垣 志門塾本部 3F (大垣市林町 3-186-1)  
           長浜 志門塾長浜校 (長浜市八幡中山町 519-1)  
           ※定員がございます

### 黒田官兵衛孝高 (如水)

天文 15 年(1546)播磨国で姫路城代を務める小寺職隆もとたかの長男として生まれ、30 歳で織田信長に拝謁したことから、羽柴秀吉に関わることとなります。軍師として中国大返しを進言するなどの策を講じて秀吉の天下統一に大きく貢献しました。その一方、官兵衛にはキリシタンであることや、歌や茶を嗜む文化人としての面もありました。

晩年には嫡男・長政が出陣した関ヶ原の戦いの裏で官兵衛は天下を狙っているかのように九州平定に挑んだとも言われています。慶長 9 年(1604)に 59 歳でこの世を去ります。

## 次回講座の人物像



黒田官兵衛は嫡男・長政や彼に続く子孫に向けて「黒田如水教諭」として、教訓を残しています。それらの教訓からは、官兵衛の人生や想いが読み取れます。その中の一つにこのような言葉があります。

主君の罰より臣下百姓の罰を恐るべし。其故は、神の罰は祈もまぬかるべし。主君の罰は詫言<sup>わびごと</sup>して謝すべし。只臣下百姓にうとまれては、必<sup>かならず</sup>國家を失ふ故、祈も詫言しても其罰はまぬかれがたし。故に神の罰、主君の罰よりも、臣下萬民の罰は尤<sup>もっとも</sup>おそるべし。

黒田官兵衛「黒田如水教諭」(井上哲次郎監修、佐伯有義ほか編『武士道全書 別巻』国書刊行会、平成10年所収)

【口語訳】神や主君からの罰は祈ったり、謝罪をすることで許されるだろう。しかし、臣下や民に嫌だと思われてしまったら必ず国を失うので、祈っても謝罪しても免れることはできない。それ故に、神や主君の罰より臣下や民の罰とは恐ろしいことなのだ。

## 関連史跡の紹介



### 合元寺 (大分県中津市)

天正15年(1587)、黒田官兵衛によって建立されたこの寺は「赤壁」と通称されます。豊臣秀吉に従うことを拒否し黒田氏と対立していた豊前の宇都宮鎮房<sup>しげふさ</sup>が反乱を起こします。そこで官兵衛の嫡男・長政は鎮房を中津城にて騙し討ちにし、この寺に滞在していた彼の家臣たちも全員殺戮しました。その返り血が消えないため壁を赤く塗ったという逸話や、大黒柱に残る刀の痕がその出来事を生々しく伝えています。



### 高松城址公園 (岡山県岡山市)

毛利攻めを進めていた豊臣秀吉軍は天正10年(1582)、毛利への忠誠心厚い知将・清水宗治の備中高松城を包囲しました。天然の要塞と化していた備中高松城に対し、官兵衛は川から水を引き込んで城を沈めるという奇策を講じます。大掛かりな水攻めに清水宗治は敗北しますが、信長の死により秀吉と官兵衛は講和の締結を急ぎました。そして、この直後にかの有名な「中国大返し」が敢行されたのです。